



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

エジプト：大統領選挙に関する諸政治勢力・世論の動向

5月26・27日実施予定の大統領選挙に向けて、現在、エジプトは選挙運動の最中にある。立候補者は2名で、前国防相・エジプト軍総司令官のアブドゥルファッターフ・スィーサーと、左派・人民潮流及び2012年大統領選挙3位のハムディーン・サッバーヒーの一騎打ちである。

1. 諸政党・政治運動の立場

これまでに諸政党、政治運動は、大統領選挙に際して以下のとおり立場を表明した。左派、リベラル派ともにムスリム同胞団を「テロ組織」と見なし、政界復帰には反対との立場を共有する。そのため、タガムウ党、会議党（アムル・ムーサー元外相らが創設）、憲法党（ムハンマド・エルバラダイ前IAEA事務局長らが創設）は、テロ掃討作戦における実行力の発揮が期待されるスィーサーを支持すると表明した。社会主義人民同盟だけは、国営企業の民営化反対の立場をとるサッバーヒーを支持している。

スィーサー支持	サッバーヒー支持	ボイコット	中立
タガムウ党（左派） 会議党（リベラル派） 憲法党（リベラル派） （コプト教徒）	社会主義人民同盟（左派）	自由公正党 ムスリム同胞団 4月6日運動	社会民主党 コプト教徒

ムスリム同胞団及びこれを母体とする自由公正党は、「クーデター政権」下での選挙に正統性はないとしてボイコットを表明した。また、政治運動団体「4月6日運動」もボイコットを表明した。同団体はポスト・ムバーラク時代の主要な革命勢力で、2013年前半にはリベラル・左派勢力とともにムルシー前大統領の辞任を求めたが、同年7月3日のクーデター以降は軍の政治介入を批判してきた。4月28日、裁判所は国家に対するスパイ活動の罪などを理由に「4月6日運動」の活動禁止を命じた。軍の政治的役割の増加、抗議運動の弾圧を理由に、同団体はボイコットを決定した。

中道左派の社会民主党は、党としてどちらかの候補者を支持することはせず、投票は個人の自由とした。コプト正教会のタワドロス2世教皇も、教会がどちらかの候補者を支持することはないとの立場を表明したが、同教皇は7月3日以降の暫定政権を支持する側に立っており、スィーサーを「英雄」と称する発言も行なったことがある。コプト教徒コミュニティは最近の一部イスラーム主義者の暴徒化に危機感を抱いており、一般信徒はスィーサーを支持している。教皇は中立と言ったものの、多くのコプト教徒はスィーサーに投票すると見られる。

2. 世論調査

定期的に世論調査を実施している「エジプト世論調査センター」(Baseera)によれば、3月、4月、5月の調査すべてにおいて、スィー・スィーの支持率は圧倒的に高い。特に立候補表明が行なわれた直後の4月調査では、スィー・スィーに投票すると答えた割合が72%に増加した。一方、サッバーヒーに投票すると回答した割合はわずかに1~2%である。この調査結果からは、事前の大方の予想通りスィー・スィー氏が勝利すると思われる。

	3月	4月	5月
投票する	83%	85%	87%
投票しない	12%	10%	9%
分からない	6%	5%	4%
スィー・スィーに投票する	51%	72%	76%
サッバーヒーに投票する	1%	2%	2%
決めていない	45%	22%	15%

「エジプト世論調査センター」は、地域別(都市部・地方、上エジプト・下エジプト)、年齢別(18-29歳以下、30-49歳、50歳以上)、学歴別の候補者の支持傾向も調査した。選挙運動が始まった5月調査では、ほとんどの地域・年齢・学歴層においてスィー・スィー氏の支持率が上昇した。唯一、大卒者においては、同氏の支持率が71%(4月)から67%(5月)に低下した。スィー・スィー氏の支持率低下がエジプト社会の少数派である大卒層で見られたこと、また支持率が低下したとはいえ支持率は67%もあることを踏まえると、スィー・スィー氏は社会の広い層で支持を獲得していることが分かる。

(金谷研究員)

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799